

G7 伊勢志摩サミット 2016

May 26-27 >>

The G7 Ise-Shima Summit, chaired by Mr. Shinzo Abe, Prime Minister of Japan, on May 26-27.



G7 2016 ISE-SHIMA SUMMIT



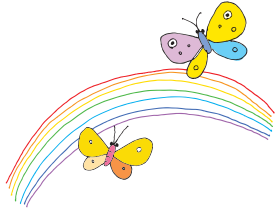
2016年5月、三重県の伊勢志摩で「第42回主要国首脳会議（G7サミット）」が開催されました。今回を含め、これまで日本は6回議長国となっており、北海道・洞爺湖サミットから8年ぶりの議長国でした。

サミットを知ることは、地球の今を知ること。そして、私たちの将来を考える題材にもなります。一緒にG7伊勢志摩サミットを振り返ってみましょう。





What is the
SUMMIT?



みんなでサミツ

サミットの基本

1

そもそもサミットって何？

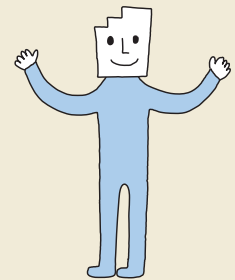
主要国とEUの首脳が参加して毎年開催される会議

サミット（主要国首脳会議）とは、日本・米国・英国・フランス・ドイツ・イタリア・カナダ・ロシア・EU（欧州連合）の首脳が参加して毎年開催される国際会議です。ウクライナ情勢を受けたロシアの参加停止により、2014年以降は7カ国（G7=Group of Seven）とEUの首脳による会議となっています。首脳会議のほかに開催される外相会

合や財務相会合等を含めた全体をサミットと呼んでいます。

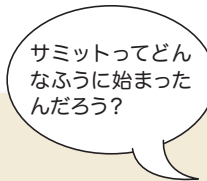
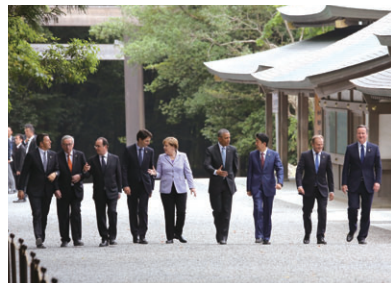
グローバル化が進む中で、国境を越えたさまざまな問題への、適切で迅速な対応が求められています。首脳たちが自由闊達な意見交換を通じて物事を決定し、トップダウンで実行に移すことのできるサミットはたいへん有効な会合として定着しました。

毎年耳にするけど、実はあまり知らないかも……





トを知ろう!



サミットのあゆみ

2

サミットの歴史とは?

1975年の第1回は経済問題を議論。次第にテーマは広範に

ニクソン・ショック(1971年)、第一次石油危機(1973年)など、1970年代に入り世界経済は混迷のただ中にありました。そうした状況のなか、先進国の間では世界経済に対する政策協調について議論する場が必要であるとの認識が生まれ、ジスカール・デスタン仏大統領(当時)の提唱により、1975



年11月、フランスのランブイエ城において、日本、米国、英国、フランス、西ドイツ、イタリアの6カ国による第1回サミットが開催されました。

その後、参加国や議題のテーマも少しずつ増え、今では経済問題に限らず、安全保障・政治問題・社会問題など、広範なテーマについて議論する重要な国際会議となっています。

1975年の第1回サミット開催後、世界経済の諸問題のみならず、さまざまな課題について取り組んできたサミット。議論されるテーマには、その時々国際情勢が反映されています。

年代別に見る主な議題

1970年代

石油危機以後の世界経済の回復

1980年代

多様化する経済問題
東西政治対立

1990年代

東西冷戦構造の終焉
グローバル化

2000年代

世界経済、気候変動
アフリカ開発、テロ

過去5年の開催国と主な議題

2011年 フランス

ドーヴィル

Deauville/France

東日本大震災
↓
復興に向けた日本との連携

その他にも

- ・世界経済・貿易
- ・原子力安全、気候変動 など



2012年 アメリカ

キャンプ・デービッド

Camp David/U.S.

欧州債務危機
↓
危機への対処、財政健全化

その他にも

- ・エネルギー問題
- ・食料安全保障 など



2013年 イギリス

ロック・アーン

Lough Erne/U.K.

シリア情勢の不安定化
↓
人道支援、地域・政治情勢

その他にも

- ・テロとの闘い
- ・税・マネーロンダリング など



2014年 ベルギー

ブリュッセル

Brussels/Belgium

ウクライナ情勢の不安定化
↓
支援の重要性、外交政策

その他にも

- ・東アジア情勢
- ・世界経済 など



2015年 ドイツ

エルマウ

Elmau/Germany

戦後70年、ランブイエサミットから40年
↓
G7の価値観の共有

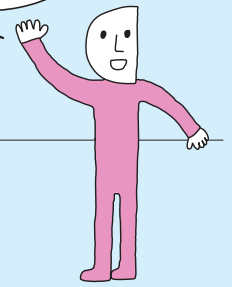
その他にも

- ・ウクライナ情勢
- ・テロとの闘い など



G7 伊勢志摩サミット

2016 — 5/26・5/27



三重県伊勢志摩地方は、「日本の原風景とも言える美しい自然がある。日本のふるさとの情景をリーダーたちに肌で感じてもらいたい」という理由から安倍総理により開催地に選ばれ、「伊勢志摩サミット」と命名されました。また、総理は「伊勢神宮は悠久の歴史を紡いできた。日本の精神性に触れていただくには大変良い場所だ。荘厳でりんとした空気を共有できればよい」と述べ、歓迎行事として各国首脳と共に伊勢神宮を訪れました。

参加首脳紹介

*年齢は2016年5月時点、参加回数は今回のサミットを含む参加回数



議長



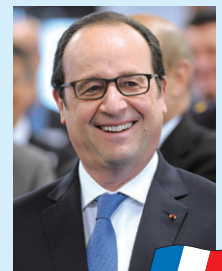
日本
安倍晋三 首相
61歳 5回参加



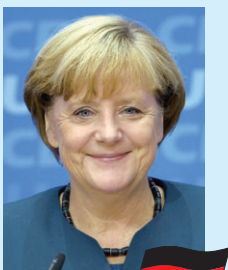
アメリカ
バラック・オバマ 大統領
54歳 8回参加



イギリス
デービッド・キャメロン 首相
49歳 7回参加



フランス
フランソワ・オランド 大統領
61歳 5回参加



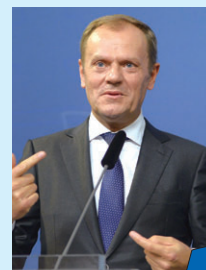
ドイツ
アンゲラ・メルケル 首相
61歳 11回参加



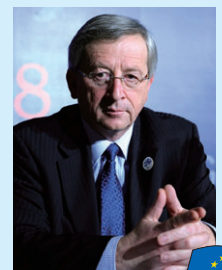
イタリア
マッテオ・レンツィ 首相
41歳 3回参加



カナダ
ジャスティン・トルドー 首相
44歳 1回参加



EU (欧州連合)
ドナルド・トゥスク 欧州理事会議長
59歳 2回参加



EU (欧州連合)
ジャン＝クロード・ユンカー 欧州委員会委員長
61歳 2回参加

首脳会議日程

- 1日目 代表団到着／伊勢神宮訪問／第1セッション(ワーキングランチ)：G7の価値・結束、世界経済／サイドイベント(自動車行車)／第2セッション：貿易／第3セッション：政治・外交／サイドイベント(日EU・EPA、テロと文化財)／第4セッション(ワーキングディナー)：政治・外交
- 2日目 第5セッション：気候変動・エネルギー／アウトリーチ会合①：アジアの安定と繁栄／アウトリーチ会合②(ワーキングランチ)：開発・アフリカ／議長記者会見／代表団帰国

※アウトリーチ会合とは…サミットにおいて、G7のメンバー(日・米・英・仏・独・伊・加・EU)以外に招待される国・国際機関が参加する会合を指します。

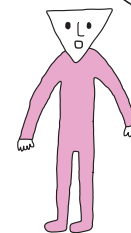
今回は、チャド、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ、バブアニューギニア、ベトナム、ラオス、国際連合(UN)、国際通貨基金(IMF)、世界銀行、経済協力開発機構(OECD)、アジア開発銀行(ADB)が参加。

関係閣僚会合の開催地

地域の活性化を後押しすべく、
10の都市が選ばれました。



伊勢志摩のほか
でもいろんな会
合があるんだね。



2016 Junior Summit in Mie 4/22～28 April

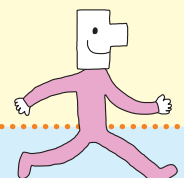
「2016年ジュニア・サミットin三重」では、G7各国の青少年28名が、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」をメインテーマに熱心に議論を行いました。気候変動、経済格差、人材育成、ジェンダーの4つの分野に関して提案や

改善策を盛り込んだ成果文書「桑名ジュニア・コミュニケ」は、参加者から安倍総理大臣に手渡されました。限られた時間で様々な背景や意見を持つ仲間と議論し、文書にまとめる過程は、チャレンジングであり、充実した時間となりました。

また、滞在中、参加者は、三重県と東京都において地元高校生を含む多くの人の温かい歓迎を受け、桑名市での「石取祭」の体験や県内各地の視察を通じて、三重県の多様な魅力に触れました。東京都では、筑波大学附属高校で授業体験や植樹を行ったほか、各国の駐日大使館に活動報告も行いました。

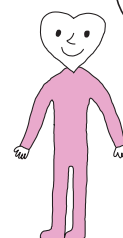


4月22日に行われた開会式（山田美樹外務大臣政務官出席）

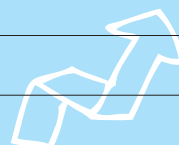


G7 伊勢志摩サミット での成果

伊勢志摩サミット
では何が話し合
われたのかな？



世界経済・貿易



世界経済については、G7として、金融政策、財政政策、構造改革の3本の矢のアプローチの重要な役割を再確認しつつ、①強固で、持続可能な、かつ、均衡ある成長軌道を速やかに達成するため、経済政策による対応を協力して強化すること、②金融・財政政策と構造政策を総動員すること、特に、機動的な財政戦略の実施と構造政策を果敢に進めることについて協力して取組を強化することの重要性について合意しました。また、世界経済、貿易、インフラ、保健、女性、サイバー、腐敗、といった具体的な分野におけるG7としての行動をとりまとめ、「G7伊勢志摩経済イニシアティブ」に合意し、G7が世界経済を牽引するとの明確な姿勢を

発信しました。

貿易については、G7として、自由貿易の重要性及び保護主義抑止へのコミットメントを再確認しました。また、WTO交渉及びTPP、日EU・EPA等の地域貿易協定を通じた貿易自由化の取組を推進すること、貿易自由化が開発に資することを強調し、途上国の貿易自由化を促すことで一致しました。

腐敗対策については、腐敗と戦う集団的及び個別的行動は、経済成長、持続可能な開発並びに平和及び安全の維持にとり決定的に重要であるとの点で一致し、「腐敗と戦うためのG7の行動」に合意しました。

政治・外交

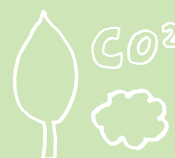
テロ・暴力過激主義については、G7として、各国の強みを活かし、相互補完的に、かつ、相乗効果を生む形で国際的な取組を主導していく必要性につき一致し、テロ対策に関する国際的な取組をG7で主導すべく「テロ及び暴力的過激主義対策に関するG7行動計画」に合意しました。また、難民問題については、短期的な人道支援に加えて、根本原因に対応することの重要性につき一致しました。日本は人道支援のみならず、中長期的な視点から中東地域の復興・開発を後押しすることで中東不安定化の根本原因の解決を促していくため、中東安定化支援の新規のコミットメントとして、2016年から18年の3年間で約2万人の人材育成を含む総額約60億ドルの支援を実施することを発表しました。さらに、北朝鮮、ロシア・ウクライナ情勢等について、G7の連携を確認したほか、海洋安全保障について、国際法に基づいて主張を行うこと、力や威圧を用いないこと、紛争解決には、仲裁手続を含む司法手続によるものを含む平和的手段を追求すべきことの重要性を再確認しました。



気候変動・エネルギー

COP21での合意で得られたモメンタムを活かしつつ、パリ協定の早期発効及びその効果的な実施に向け、G7が率先して取り組むべきとの決意を確認しました。同時に、実効的な排出削減を進めるには、主要排出国の積極的な関与を引き出ししていくことが重要であるとの認識で一致しました。

エネルギー安全保障の確保は、国際社会にとって引き続き喫緊の課題であるとの認識の下、①上流開発、質の高いインフラ、クリーンエネルギー技術への投資の促進、②天然ガス市場の安全保障強化のための行動、③エネルギー技術の革新とエネルギー効率の拡充の推進等について一致しました。





議長国としてG7の結束を確認しつつ、サミットの最大のテーマである世界経済、日本の優先議題（「質の高いインフラ投資」、「保健」及び「女性」）や海洋安全保障等で議長国としてのリーダーシップを発揮し、具体的な行動を伴う成果に結びつけました。



開発・アフリカ

開発については、持続可能な開発のための2030アジェンダの採択は、貧困削減及び持続可能な開発へのアプローチにおける新時代の幕開けであり、G7として、2030アジェンダの実施を、人間中心の、かつ、地球に配慮した形で、国内的及び国際的に進めることにコミットしました。また、G7として、これまでの開発関連コミットメントの進捗を評価した「伊勢志摩進捗報告書」を発出しました。

アフリカについては、アフリカにおける課題に対処することが、SDGs（持続可能な開発目標）の実現のための中心となることを確認するとともに、初のアフリカ開催となるTICAD VI（第6回アフリカ開発会議）が、世界の理念をアフリカのための行動に移す重要な節目となることを確認しました。



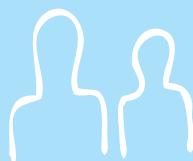
質の高いインフラ投資

「質の高いインフラ投資」の基本的要素についても国際社会で認識を共有することが重要との点で一致し、「質の高いインフラ投資の推進のためのG7伊勢志摩原則」にG7として合意しました。また、G7で合意した内容を、今後、各国・国際機関等に対して効果的に発信し、インフラ投資・支援の実施において、「原則」に沿った行動をとるよう促していくことを確認しました。安倍総理から、日本は本年のG7議長国として、アジアのみならず、世界全体に対して今後5年間で総額約2000億ドル規模の質の高いインフラ投資を実施していくこと等を決定した旨表明しました。



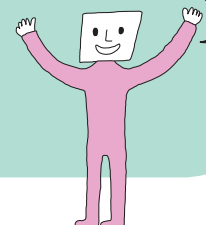
保健

G7として、①感染症等の公衆衛生危機への国際社会の対応能力の強化、また、②幅広い保健課題への対応の鍵となり、危機対応にも資するユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の推進、さらには、③薬剤耐性への対応の強化が重要との点で一致し、これらの分野に関する「国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン」を発出しました。また、安倍総理からは、本年のG7議長国として、公衆衛生危機対応、感染症対策やUHCの達成に向けた保健システムの強化等のため、国際保健機関等に対し、今後新たに約11億ドルの支援方針を決定した旨発表しました。



女性

G7として、女性の活躍を後押しするために、女性の潜在力を開花させ、とりわけ自然科学分野における女性の活躍促進が重要との認識の下、「女性の能力開花のためのG7行動指針」及び「女性の理系キャリア促進のためのイニシアティブ（WINDS）」に合意しました。安倍総理からは、途上国の女性の活躍を推進するための新たな開発戦略を策定したことを紹介するとともに、今後3年間で約5000人の女性行政官等の人材育成、約5万人の女子生徒の学習環境の改善を実施する旨表明しました。



1つ1つのテーマについて有意義な議論があったんだ。

首脳会議

世界経済の下方リスク、国際秩序に対する一方的な行動による挑戦といった喫緊の課題に対し、普遍的価値に立脚したG7として、連携して国際社会を主導していくことで一致しました。

安倍総理大臣の議長の下で、5月26日は、第1セッション（ワーキング・ランチ）で「G7の価値・結束、世界経済」について、第2セッションで「貿易」について、第3セッション及び第4セッション（ワーキング・ディナー）で

「政治・外交」について、G7首脳による議論が行われました。翌27日の第5セッションでは「気候変動、エネルギー」について、議論が行われました。

世界経済の下方リスク、国際秩序に対する一方的な行動による挑戦といった喫緊の課題に対し、普遍的価値に立脚したG7として、連携して国際社会の取組を主導していくことで一致しました。特に、世界経済については、G7として、金融政策、財政政策、構造改革の3本の矢のアプローチの重要な役割を再確認しつつ、特に、機動的な財政戦略の実施と構造政策を果敢に進めることについて、協力して取組を強化することの重要性に合意



第4セッション（ワーキング・ディナー）「政治・外交」

し、G7が世界経済を牽引するとの明確な姿勢を発信しました。また、アジア開催のサミットとして、海洋安全保障や北朝鮮問題といったアジアの議題を重点的に議論しました。テロ、難民問題といった政治外交問題や、気候変動・エネルギーや開発等、国際社会が直面する様々な課題についても、首脳間で率直に意見交換を行いました。



第5セッションで発言する安倍総理大臣

アウトリーチ会合

G7首脳にアジア・アフリカの首脳及び国際機関の長を交え、「アジアの安定と繁栄」、「開発、アフリカ」について活発な議論が行われました。

5月27日、G7首脳間の議論に続いて、アウトリーチ参加国・機関を招き、アウトリーチ会合を開催しました。第6セッションで「アジアの安定と繁栄」について、第7セッション（ワーキング・ランチ）で「開発、アフリカ」について

議論が行われました。アウトリーチ会合には、アジア・アフリカの首脳（チャド、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ、パプアニューギニア、ベトナム、ラオス）や国連を始めとする国際機関の長（国連、IMF、世銀、OECD、



第6セッション「アジアの安定と繁栄」

ADB）も議論に参加しました。

「アジアの安定と繁栄」をテーマに、「質の高いインフラ投資」及び「開かれ、安定した海洋」について議論が行われたほか、今回は「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）」採択後初めてのG7サミットでもあることから、「保健」や「女性の活躍」に焦点を当てつつ、SDGsの推進及びアフリカの開発について議論が行われました。



G7 及びアウトリーチ招待国首脳の集合写真

配偶者プログラム

安倍昭恵総理大臣夫人とG7首脳配偶者は日本の美しい自然、食文化を含む豊かな文化に触れるなど、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

5月26日及び27日、安倍昭恵総理大臣夫人は、三重においてG7伊勢志摩サミット配偶者プログラムを主催しました。1日目には、安倍総理大臣夫人及び首脳配偶者一行は、伊勢神宮、御木本真珠島を訪問し、地元の方々による出迎えを受け、真珠の取出しを体験し、海女との交流を行うなど日本文化への理解を深めました。また、同一行は、志摩観光ホテル・ザ・



御木本真珠島で地元の方々の出迎えを受けました

クラブの庭園において、鈴木三重県知事及び同県内の小学生と共に植樹を行いました。昼食会・夕食会の機会には、安倍総理大臣夫人から、首脳配偶者一行に対するおもてなしの一環として、三重県産の食材を豊富に用いた料理、日本ワイン及び被災地の日本酒を提供・紹介し、我が国の食文化の魅力を世界に発信する非常に有意義な機会となりました。2日目には、同一行は、国際メディアセンター（IMC）に設置された政府広報展示スペース、三重情報館を視察し、日本や三重の技術、伝統工芸への理解を深めました。また、パラスポーツ体験イベントを視察し、その後、竹あかり制作ワークショップに参加しました。



伊勢神宮を訪問するG7首脳配偶者



宇治橋を背景に撮影に臨むG7首脳配偶者

2日間のプログラムを通じて、安倍昭恵総理大臣夫人とG7首脳配偶者は日本の美しい自然、豊かな文化に触れるとともに、三重県産の食材を豊富に使った食事を囲みつつ、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

首脳による視察、サイドイベント

5月26日、サミットのサイドイベントとして、自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーション、日EU経済連携協定（EPA）に関する共同ステートメントの発出、「テロと文化財——テロリストによる文化財破壊・不正取引へのカウンターメッセージ」がそれぞれ行われました。

5月26日、安倍総理大臣は、サイドイベントとして、自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーションを行い、続いてこれらの自動車の試乗が行われました。安倍総理大臣は、自動走行車の実用化により、世界で最も安全な道路交通社会の実現を目指す、また、燃料電池自動車の普及により、環境・エネルギー問題の解決に取り組む旨述べました。



自動走行車・燃料電池自動車のプレゼンテーション

また同日、安倍総理大臣は、欧州理事会議長、欧州委員会委員長、欧州各国首脳と共に、日EU経済連携協定（EPA）に関する共同ステートメントを発出し、日EU・EPAについて本年のできる限り早期に大筋合意に達すると強いコミットメントを確認しました。

さらに同日、サイドイベント「テロと文化財——テロリストによる文化財破壊・不正取引へのカウンターメッセー



サイドイベント「日EU・EPAに関する共同ステートメントの発出」

ジ」を開催しました。このサイドイベントは、タリバーンによって破壊されたバーミヤン東大仏天井壁画及び焼失した法隆寺金堂壁画第6号壁を日本の高度な遺跡修復技術を使って「クローン文化財」として復元したものを展示した会場で実施され、安倍総理大臣からは、文化財の破壊は、全人類の歴史、文化を破壊する行為であり、断じて許されない旨発言しました。



サイドイベント「テロと文化財」



伊勢神宮を訪問するG7首脳

G7 広島外相会合

4月10日から11日まで広島にて開催され、国際社会が直面する喫緊の課題や地域情勢について議論が行われました。

日本：岸田文雄外務大臣
アメリカ：ジョン・ケリー国務長官
イギリス：フィリップ・ハモンド外務英連邦大臣
フランス：ジャン＝マルク・エロー外務・国際開発大臣
ドイツ：フランク＝ヴァルター・シュタインマイヤー連邦外務大臣
イタリア：パオロ・ジェンティローニ外務・国際協力大臣
カナダ：ステファン・ディオン外務大臣
EU：フェデリカ・モゲリーニ外務・安全保障政策上級代表兼
欧州委員会副委員

4月10日から11日まで、広島において、G7広島外相会合が開催されました。岸田文雄外務大臣が議長を務め、米国、英国、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの各国外相とEU外務安全保障政策上級代表が出席しました。

G7広島外相会合では、二日間にわたり、テロ・暴力的過激主義、難民問題、軍縮・不拡散、海洋安全保障などの国際社会が直面する喫緊の課題や、北朝鮮、中東、ウクライナといった地域情勢について議論が行われました。

また、関連行事として、10日、岸田外務大臣は各国の外相とともに、厳島神社を訪問し、11日には、核兵器国を含むG7外相による初の広島平和記念公園訪問が行われ、平和記念資料館視察、原爆死没者慰霊碑への献

花が行われました。さらにケリー米国務長官の提案で、G7外相は急遽原爆ドームを訪れました。

二日間にわたるG7広島外相会合の成果として、幅広い課題を示した「G7外相会合共同コミュニケ」のほか、「核軍縮及び不拡散に関するG7外相広島宣言」を始め、「海洋安全保障に関するG7外相声明」及び「不拡散及び軍縮に関するG7声明」を発出し、G7として、力強いメッセージを国際社会に発信しました。



G7広島外相会合議長国会見に臨む岸田外務大臣



原爆死没者慰霊碑前の日米外相



会合に臨むG7外相等

世界のメディアを通じた発信

G7伊勢志摩サミットをはじめ、日本の社会や自然、伝統文化なども各国の新聞やテレビで取り上げられました。



安倍総理大臣はサミット開催に先立ちウォール・ストリート・ジャーナル紙に寄稿したほか、サミットを締めくくる議長国記者会見を行い、NHKのほか、CNNなどの主要メディアがサミット議長国としての考えを世界に発信しました。

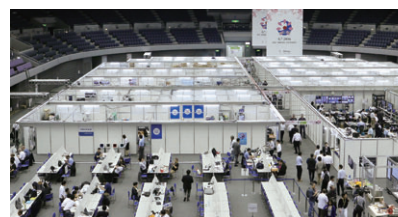
サミット期間中は、各国プレスに対し国際メディアセンター(IMC)において、各セッションの内容に関する議長国ブリーフィングを計6回実施するなど、各国のメディアに対して積極的に情報発信を行いました。

また、サミットの議論に加え、日本の自然や社会、伝統文化等の魅力を広く世界に発信するために、外国メディアを対象とする広島や三重への事前プレスツアーや、外国記者やテレ

ビチームの招へいも行いました。例えば、英国やイタリアのメディアは、伊勢志摩の美しい自然や海女漁業文化を伝えました。サミットの機会をとらえて日本の魅力を発信するためのこうした様々な取組を通じ、BBCやCNNといったG7各国の主要メディアだけではなく、アジア、アフリカ、中東などの世界各国のメディアもサミットでの議論に加え、日本の社会や自然、伝統文化などを紹介しました。

G7広島外相会合の際には、「核兵器のない世界」に向けた取組を含む国際社会の課題に対して、G7として対応を主導する旨を世界に発信すべく、岸田外務大臣がル・フィガロ紙など4か国のメディアに寄稿しました。また、G7各国外相が広島の平和記念

公園内の原爆死没者慰霊碑に献花する様子が世界各国のメディアで取り上げられました。



国際メディアセンター（IMC）には世界各国から多くの記者が集まり、IMC内からの中継も行われました



議長国ブリーフィングの様子



安倍総理大臣による議長国記者会見の様子



伊勢志摩

第42回主要国首脳会議(G7サミット)が開催された伊勢志摩は三重県の南東部に位置します。志摩市は市の全域が伊勢志摩国立公園内にあり、古くから皇室や朝廷に食材を献納する国、という意味の「御食つ国(みけつくに)」と呼ばれ、豊富な海の幸と美しい自然に恵まれています。

会場となった賢島は、真珠の養殖で知られる英虞湾最大の島で、本土とは2本の橋で結ばれています。志摩地域でもメインとなる観光地として年間1000万人以上の観光客が訪れています。



サミットの詳細については、
G7伊勢志摩サミットの公式ホームページ及び
外務省ホームページをご覧ください。

<http://www.g7ise-shimasummit.go.jp>
http://www.mofa.go.jp/mofaj/ecm/ec/page4_001562.html



G7 伊勢志摩サミット

検索

写真提供：内閣広報室、時事、AFP=時事、EPA=時事、(公社)三重県観光連盟、ミキモト真珠島

外務省

〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1 TEL 03-3580-3311(代)

発行：国内広報室
2016.8

※本パンフレットは、環境に配慮して水無し印刷を行い、再生紙、SOYインクを使用しています。